

きらら交流館再整備事業 基本設計書 （概要版）

□ブランド

新しい業態表現の創造
「 交流館 」から「 海辺の駅 」へ

消費者に広く認知されている「道の駅」「海の駅」が持つ業態イメージを活用し、当該施設の最大の魅力である様々な海辺財産を活かすため、新たに「海辺の駅」という業態表現を開発します。

「道の駅」「海の駅」の業態をビジネスモデルとして、「道の駅」「海の駅」の機能を有しながら、自由度の高い公共性のあるレジャー施設の運営を目指します。

□コンセプトメッセージ

「 あなたが創る思い思いの海辺時間 」

わたしたちのマチには、こんなにもステキな海辺があります。
「日本の夕陽百選」にも認定された「きららビーチ焼野」は、
春夏秋冬 季節ごとに表情を変えてわたしたちを海辺へ誘います。
波音を聞きながら、それぞれのライフスタイルでゆっくりと流れていく海辺の私時間。

海と空に出会う渚「そらうみ」でお会いしましょう。

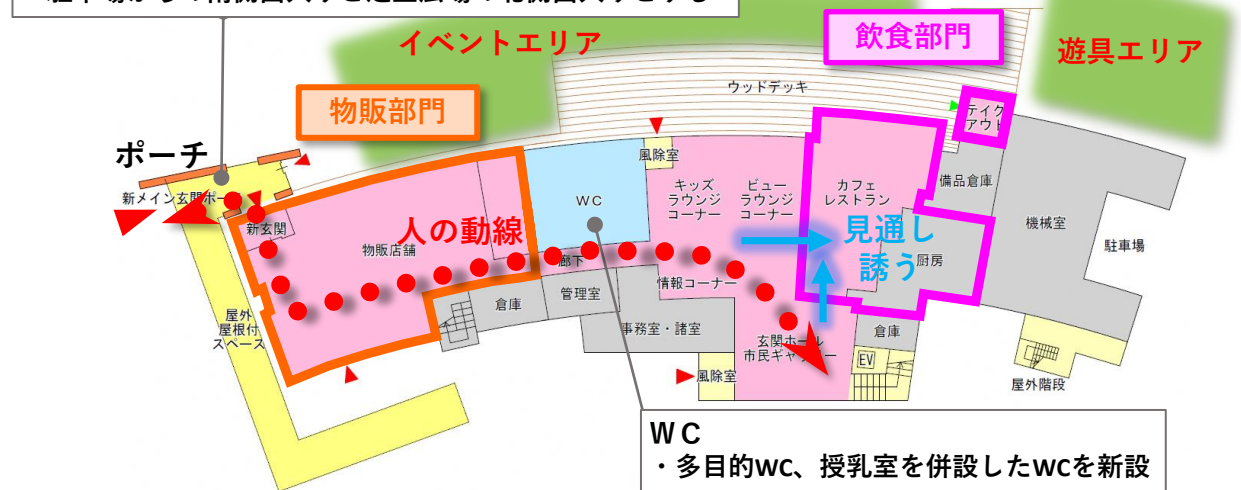
□海辺の駅の方向性の検討 / これに伴う平面計画図

「きらら交流館再整備事業」では、以下の3つの観点を柱とします。

- スマイルエイジングにつながる機能
- 道の駅、海の駅などの観光・交流拠点としての機能
- 対象施設周辺の地域資源を活かした交流人口の増加及びにぎわいの創出につながる機能

このたびの「きらら交流館整備事業」は、全国に展開されている国土交通省認定の「道の駅・海の駅」の業態をビジネスモデルとして、従来の宿泊研修施設から山陽小野田市の新たなレジャー施設への機能転換を図るものです。

新メイン玄関ポーチ
・物販店舗の運営時間はメイン出入口として館内利用者が店舗内を経由する動線とする
・駐車場からの南側出入りと芝生広場の北側出入りとする



改修後 1 階平面図

「 そらうみ 」ネーミングストーリー

この施設の目の前に広がるのは、遮るもののない「空」と「海」の景色があります。遠く九州の山並みすら望むことが出来るこの圧倒的なロケーションの中で、人々が集う、山陽小野田市の海辺のレジャー拠点の名前です。

どの世代にも分かりやすく、ロケーションの魅力をストレートに伝えるため、すべて「ひらがな」でシンプルに表現しました。

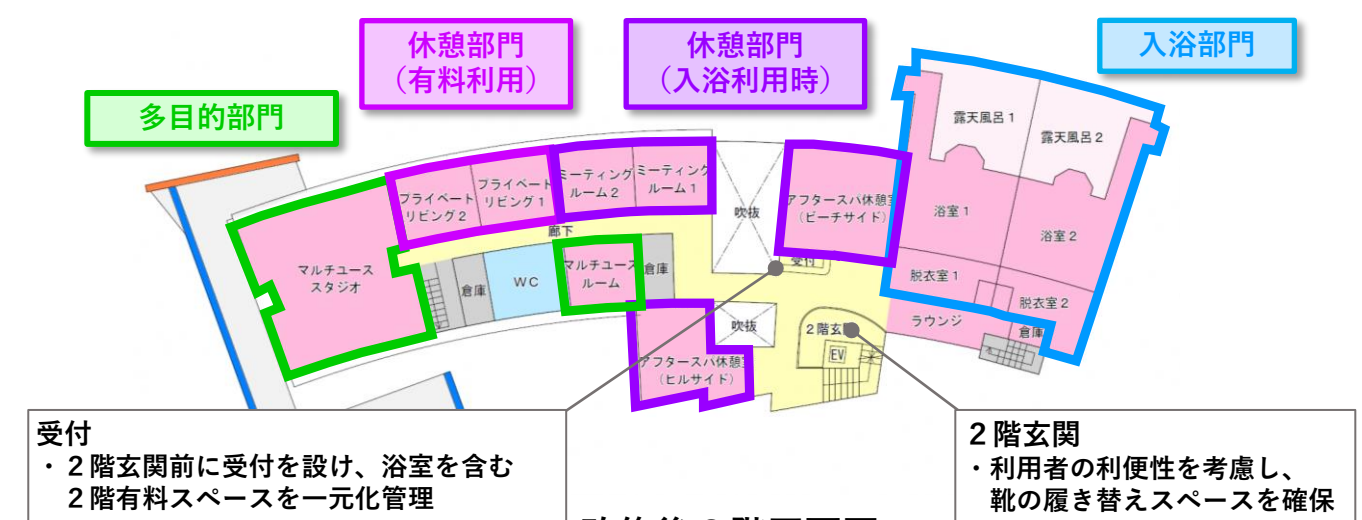
SNSとの相性も考慮しながら、「覚えやすい」「伝えやすい」「分かりやすい」ネーミングとしました。広域周知も考慮して「山陽小野田」の地名もセットアップします。

□ロゴ・マークデザイン



駐車場南面外観イメージ

駐車場南面外観イメージ（夕景）



改修後 2 階平面図